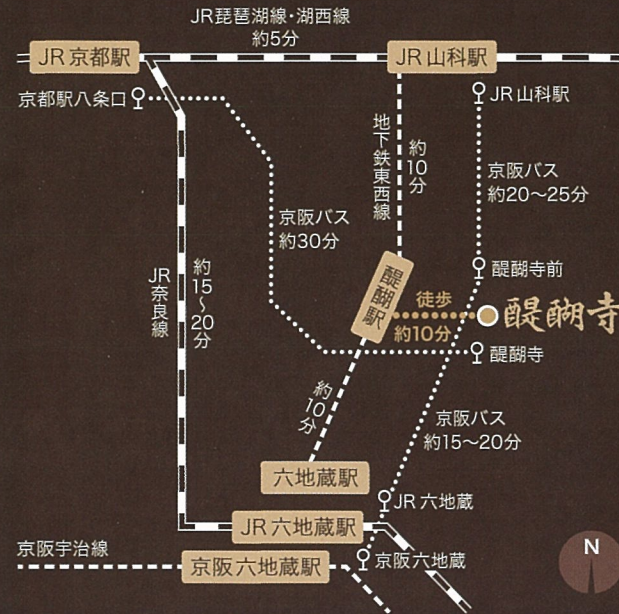


アクセス



- ・地下鉄東西線「醍醐駅」下車 ②番出口より徒歩約10分
- ・京阪バス22・22A系統「醍醐寺前」下車
- ・京阪バス山科急行線「醍醐寺」下車

醍醐寺について、さらに詳しい情報はこちらへ



<https://www.daigoji.or.jp>

総本山 醍醐寺

〒601-1325 京都市伏見区醍醐東大路町22

TEL.075-571-0002

ごあいさつ

およそわが国の文化遺産の伝承の中で、民衆の祈りの世界、仏教の果たしてきた役割を無視することはできません。特に密教を中心とした祈り、加持・祈祷のもとたす現世利益の祈りの世界は、必然的に政治権力との結びつきを容易にする作用をもたらしてきました。したがって、時の為政者の興亡は、その寺院の盛衰に大きな影響を与え、醍醐寺の歴史は、これを如実に示し伝えています。そこには、現在の醍醐寺の佇まいからほとんど想像しえない豊かな歴史と物語が秘められています。

醍醐寺は、貞観16年(874)聖宝尊師の努力で開創されました。以来、醍醐・朱雀・村上父子三代の聖帝、嵯峨皇后の帰依により醍醐寺永世護持の基礎が築かれました。

南北朝には、足利尊氏の帰依を一身に集めた賢俊僧正、足利義満將軍率いる室町幕府の黒衣の宰相と言われ重んじられた満濟准后、桃山時代の義演准后は秀吉の帰依のもと「醍醐の花見」をもって

一山を中興、江戸時代の高賢僧正は修験行者3,000名をともし大峯山入峰をなし修験道興隆を図る等々、歴代領徳の座主を迎え寺は護られてきました。しかし、明治の廃仏毀釈の折には、寺領は国に返還、経営基盤は大きくゆれ、衰退の一途をたどりはじめました。しかしこの苦境の中、一山に伝わる一切の宝物を、一紙に至るまで流出する事なきを旨として、実働に入ったその結果、現在、伝承文化財は、国宝69,420点、重要文化財6,521点におよび、古代、中世以来の貴重な宝物資料が静かに保存されています。

平成6年12月に新たに世界文化遺産に登録された醍醐寺は、「木の文化」「紙の文化」伝承の宝庫であると認識する時、醍醐寺一山は一本一草に至るまで文化財と心得、「生かされてこそ文化財」という一語を大切に、伝承を続けています。

本日は、ようこそお参りくださいました。

醍醐寺 第百三世座主 仲田順和

世界文化遺産



総本山

醍醐寺

THE WORLD CULTURAL HERITAGE DAIGOJI TEMPLE

伽藍エリア

豊臣秀頼が再建した西大門（仁王門）をくぐると、堂塔の並ぶ伽藍が広がります。醍醐寺の本堂である金堂（国宝）は豊臣秀吉の命により紀州（和歌山）から移築されたものです。本尊の薬師如来坐像は病気を癒し、苦しみを除く仏様で、両脇侍の日光・月光菩薩立像とともに重要文化財に指定されています。五重塔（国宝）は、醍醐天皇の菩提を弔うために朱雀天皇が起工、村上天皇の天曆5年（951）に完成した京都府下最古の木造建築物です。

さらに東に進むと、現在、西国三十三観音霊場第十一番札所となっている観音堂に出会います。札所本尊の准胝観世音菩薩は「子授け」の観音様として多くの信仰を集めています。伽藍には、その他にも清瀧宮本殿（重文）や祖師堂、不動堂、真如三昧耶堂、弁天堂など多くの堂宇が立ち並び、平安時代からの人々の信仰が息づいています。また、観音堂の近くには弁天池や無量寿苑があり四季折々の風景を楽しむことができます。



五重塔



金堂



仁王門

霊宝館エリア

醍醐寺は開山以来、天皇、貴族、武家、民衆など、多くの人々の祈りに守られてきました。その歴史の中で育まれた仏像、絵画、工芸品など、10万点以上の寺宝を伝承しています。

霊宝館は、これらの貴重な寺宝の保存と公開を兼ねた施設として、昭和10年（1935）に開館しました。平成13年（2001）には上醍醐薬師堂の薬師三尊像（国宝）が、平成26年（2014）には同じく上醍醐五大堂の五大明王像（重文）が、霊宝館の平成館に安置されました。薬師堂に祀られていた薬師如来坐像（国宝）は、病や痛みと同じ場所へ金箔を貼り折れば平癒することから「箔薬師」ともいわれ、多くの信仰を集めています。五大明王は「五大力さん」として親しまれ、長きにわたり人々を災いから守り続けています。霊宝館では、このほか醍醐寺の祈りと文化を示す多くの絵画、文書などを順次公開しています。



枝垂れ桜



霊宝館



五大明王像のうち不動明王坐像

三宝院エリア

三宝院は醍醐寺第14世座主・勝覚僧正によって永久3年（1115）に創建されました。以来、醍醐寺座主の居住する本坊として醍醐寺の中核を担ってきました。

現在の三宝院は、豊臣秀吉が慶長3年（1598）に催した「醍醐の花見」を契機として整備されました。その庭園は、秀吉自らが基本設計をしたもので、国の特別史跡・特別名勝に指定されています。その庭園全体を見渡せる表書院（国宝）をはじめとする建造物の多くが重要文化財に指定されています。また、通常は非公開となっている本堂（重文）には、鎌倉時代の著名な仏師・快慶の最高傑作とも言われる弥勒菩薩坐像（重文）が祀られ、毎朝祈りが捧げられています。



三宝院 庭園



唐門



三宝院 表書院

